

# 2006春日井市民第九演奏会

とき 2006.12.3 SUN 午後3時開演 春日井市民会館

主催 春日井市、春日井市教育委員会、(財)かすがい市民文化財団、2006春日井市民第九演奏会実行委員会

共催 春日井市交響楽団、春日井第九合唱団

後援 中部大学、中日新聞社

## ごあいさつ



春日井市長 伊藤 太

年末の恒例行事として毎年多くの皆様が心待ちにしている「春日井市民第九演奏会」におこしいただき誠にありがとうございます。

今年で第14回を迎えますこの演奏会は、平成5年12月に市制施行50周年記念事業のひとつとして開催して以来、管弦楽から合唱まで市民による手作りの演奏会として親しまれてまいりました。魅力ある市民文化の創造をまちづくりの大きな柱としております本市にとりまして誠に喜ばしいかぎりであります。

今回は、指揮者にマーク・ライベル氏を、そしてソリストにはオペラや歌曲などで活躍され、その美しい声と豊かな声量で人気を博しているダニエル・オーレンシュレーガー氏を始め実力派の方々をお迎えし、「第九」のさらなる魅力が引き出されるものと期待しております。これもひとえに、春日井第九合唱団と春日井市交響楽団の皆様の多大なご尽力の賜物と心から感謝申し上げます。

今年も残すところわずかとなりました。皆様にとりましてそれぞれ思い出深い一年であったことと思います。新たな年が皆様にとって輝かしい年でありますようにと願い、師走のひとつきを「第九」の演奏会でお楽しみいただきたいと思います。



2006春日井市民第九演奏会実行委員会会長  
中部大学学監 三浦昌夫

本年も、恒例の「春日井市民第九演奏会」にみなさまおそろいでおいでいただきありがとうございます。

この「春日井第九」の創立者であります鶴飼一郎市長が、この10月にお亡くなりになったことは、まことに残念なことです。ここから哀悼の意を表します。新しい伊藤太市長をはじめ、また、多くの方々のご支援で、鶴飼市長のご遺志をご一緒に継いでいきたいと存じます。みなさま方のますますのご協力を「春日井市民第九演奏会」にお寄せ下さいますようお願いいたします。

本年は、指揮者にリンツから若いマーク・ライベルさんをお招きしました。バリトンのダニエル・オーレンシュレーガーさんもリンツでご活躍の国際的な歌手です。さらに、いま各地でご活躍の福住恭子・宮澤優子・平尾憲嗣の三人のソリストのみなさまにもご出演いただきます。合唱団も200名を越え、オーケストラもさらに経験を増して、例年以上に充実した演奏をお聴かせ出来るものと存じます。

では、最後の全員合唱のアンコール「春日井賛歌」まで、ごゆっくりお楽しみ下さい。

## プログラム

Program

ルートヴィヒ・ファン・ベートーヴェン作曲  
LUDWIG VAN BEETHOVEN (1770-1827)

### 交響曲第9番 二短調 作品125 「合唱つき」 Symphony No.9 in d-minor op.125 "Choral"

- 第1楽章 アレグロ マノン トロポ、ウン ポコ マエストーソ  
1mov. Allegro ma non troppo, un poco maestoso
- 第2楽章 モルト ヴィヴァーチェ  
2mov. Molto vivace
- 第3楽章 アダージョ モルト エ カンタービレ  
3mov. Adagio molt e cantabile
- 第4楽章 フィナーレ、プレスト-アレグロ アッサイ-レシタティーヴォ-アレグロ アッサイ  
4mov. Finale, Presto - Allegro assai - Rezitativo - Allegro assai

指揮者

Conductor

マーク・ライベル

Marc Reibel



ソプラノ Soprano

福住 恭子

Fukuzumi Kyoko

テノール Tenor

平尾 憲嗣

Hirao Noritsugu

アルト Alto

宮澤 優子

Miyazawa yuko

バス Bass

ダニエル・オーレンシュレーガー

Daniel Ohlenschlager



Music director

音楽監督 都築正道

Tsudzuki Masamichi

Sub conductor

合奏指導 加藤完二

Katoh Kanji

Chorus conductor

合唱指導 吉川 朗

Yoshikawa Akira



管弦楽 春日井市交響楽団

KASUGAI CITY PHILHARMONIC ORCHESTRA



合唱 春日井第九合唱団

KASUGAI CHORUS OF THE 9TH SYMPHONY

## 出演者紹介



指揮者 **マーク・ライベル**

1973年にドイツのシュパイヤーで生まれました。ライン川に沿ったこの街はユネスコの世界遺産に登録された大聖堂で有名です。マークは、8歳のときからピアノのレッスンを受け始めました。ハイデルベルグ・マンハイム音楽院に進み、ピアノを習いました。同時に、シュトゥットガルトの音楽院で指揮を納めました。この間、有名なシュトゥットガルト・フィルを始め、ロイトリンゲン・フィルやバーデン・バーデンフィルなどの指揮をしています。ピアニストとしても多くのコンクールで優勝し、ソリストとして多くの演奏会も開いています。2001年から、リンツ州立劇場の専属指揮者として、《魔笛》《後宮からの誘拐》《カルメン》《売られた花嫁》《こうもり》《サウンド・オブ・ミュージック》などなど、数々のオペラやオペレッタやミュージカルを指揮しています。2004年には、リンツのブルックナー・オーケストラを率いて、ウィーン・コンツェルトハウスを始め、オーストリアの各地で指揮をしています。今回、初来日。



ソプラノ **福住 恭子**

大阪音楽大学卒業、同大学院オペラ研究室修了。2001年よりミラノ（イタリア）に留学。ミラノをはじめ、シチリア島・マントヴァなどイタリア各地でコンサートに出演するなど積極的に活動している。豊かな声量と、あふれる音楽性、親しみやすいキャラクター。彼女の奏でる天性の声は、人々の心に大きな感動と喜びを与えている。第21回イズマエレ・ヴォルトリーニ国際コンクール（イタリア）第2位。第1回国際声楽コンクール（マントヴァ・イタリア）第2位。オペラでは「トゥーランドット」リュウ役、「イル・トロヴァトーレ」レオノーラ役等が好演。



アルト **宮澤 優子**

新潟市生まれ。国立音楽大学卒業。現在、ミラノ・シチリアを中心にイタリア各地で演奏活動を行っている。新潟市音楽コンクール最優秀賞受賞。ヴェルツェリ国際コンクール入選。05年10月、新潟にてイタリア・ミラノのスカラ座・ヴェローナ野外劇場などでの主役経験を持つヴィンチェンツォ・ブーマ氏をゲストに迎えリサイタルを開催、好評を得る。05年11月、名古屋港イタリア村にて15日間連続のオペラティックコンサートに出演。カティア・ロローヴァ氏に師事。ミラノ在住。

05年11月、名古屋港イタリア村にて15日間連続のオペラティックコンサートに出演。カティア・ロローヴァ氏に師事。ミラノ在住。



バス **ダニエル・オーレンシュレーガー**

リンツを中心に、オペラや歌曲や宗教曲などを歌い、その美しい声と豊かな声量で人気を博している若手のバリトンです。オーストリアのリンツのブルックナー大学でバリトンを納めました。1997年から今年まで、リンツの州立劇場の歌曲祭に出演。オペラのデビューは《ドン・ジョヴァンニ》のレポレロで、その後、《ファルスタッフ》のフォードや《フィガロの結婚》の伯爵、《タンホイザー》のヴォルフラムや《魔笛》のパパゲーノといった主役や主役級を歌っています。そのほか、バッハやハイドンの作品にも数多くソリストとして出演。2006年の今年も、レポレロを歌い、ハイドンの「天地創造」でオーストリア・ツアーを重ねています。



テノール **平尾 憲嗣**

国立音楽大学卒業、同大学院オペラコース修了。小澤征爾音楽塾「ラ・ボエーム」のロドルフォ役など多数の舞台に出演。その他、東京オペラの森、日本ロッシェニ協会、ヴェルディ協会主催によるオペラやコンサートに出演し、東京都交響楽団・九州交響楽団とも共演する。第4回オペラティックバトル第1位。現在、国立音楽大学演奏補助員・藤原歌劇団団員。



音楽監督  
**都築 正道**

1940年名古屋生まれ。名古屋大学文学部美学卒。関西学院大学大学院博士課程修了。「ワーグナー研究」で文学博士。現在、中部大学教授。オペラを中心に「舞台芸術論」を講義。春日井市交響楽団音楽監督・春日井市民第九演奏会音楽監督。愛環音楽連盟理事長。名古屋ナポリ協会会長。「桑名で歌う日本の第九」「NYの指揮者とソリストによる春日井第九」「愛環千人の第九」「(同)ガラ・コンサート」「中部大学キャンパス・コンサート」などを企画。朝日新聞音楽評担当。愛知県芸術劇場の「オペラ・トーク」「ハイビジョン・オペラ・シアター」をはじめ、講演会やTVや雑誌でオペラを解説。「名古屋オペラ・サロン」主宰して毎月「オペラ講座」を開催。NHK名古屋文化センター講師。オペラ関係の著書に「楽劇：音と言葉の美学」（音楽之友社）・「あくびなしの音楽講座：トスカ」（同）がある。日本バンククラブ会員。



コンサートマスター  
練習指揮  
**加藤 完二**

ヴァイオリンを尾島綾子・東儀幸各氏に師事。在学中より指揮を学び、卒業後関西二期会等で朝比奈隆氏他の副指揮を務めた。大阪音楽大学でのオペラ指揮を皮切りに、各地でオーケストラやオペラを指揮。特にアマチュアオーケストラのトレーニングは好評。ルーマニアの「第2回ディヌ・ニクレスク国際指揮者コンクール」入賞及び審査員特別賞受賞。6年後同国でオペラ「カヴァレリア・ルスティカーナ」他を客演指揮し、海外でも評判を得る。伊丹シティフィルハーモニー管弦楽団監督。クレフ室内管弦楽団主宰。



合唱指揮  
**吉川 朗**

愛知教育大学音楽科卒業。同大学院（作曲）修了。第九指導は1987年の半田第九に始まり、ナゴヤシティ管弦楽団（現セントラル交響楽団）、一宮第九を歌う会、小牧第九合唱団など。NHKナゴヤニューサウンズオーケストラ常任指揮者。

ピアノ伴奏（合唱団）  
**竹内 理恵**  
**松永祐未子**



オーケストラ **春日井市交響楽団**

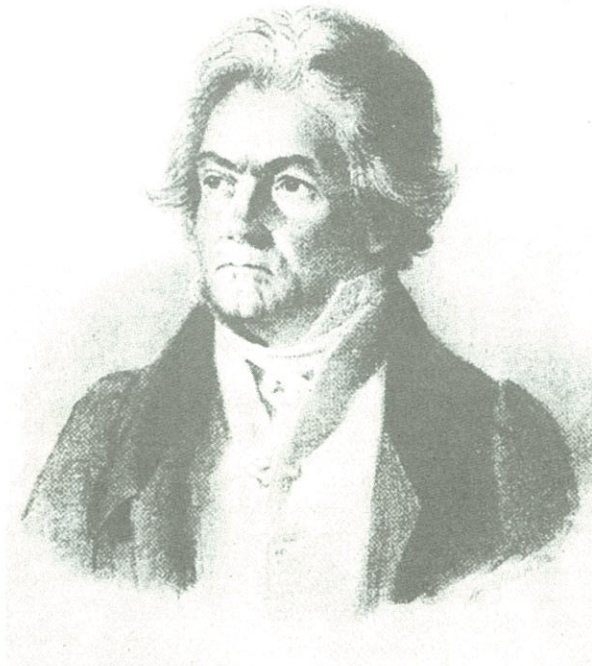
市民オーケである春日井市交響楽団は、「第九の演奏会を春日井でも開きたい」という私たち市民の希望から生まれました。市内の音楽愛好家を中心になって、「市民が演奏し、市民が聴く、春日井市民のオーケストラ」が、1990年（平成2年）11月に創立されました。愛称『カゴ』（KAPO）は英字名称「KASUGAI CITY PHILHARMONIC ORCHESTRA」の頭文字をとったもので、イタリア語の「カゴ」（capo 頭・先頭に立つ者）の思いもあります。毎年、の定期演奏会と12月の「春日井市民第九演奏会」を中心に、数多くのオーケストラ活動を行っています。団員は、会社員・公務員・教員・医師・主婦・学生・自営業者などからなる60名。私たちにあって、最大の喜びは、一人でも多くのおみなさまに演奏会においていただき、クラシック音楽を好きになっていただくことです。そのために、「春日井で名曲の名演奏を」と心がけています。今年の「第九」も、大いに自信があります。ぜひ、お出かけ下さい。（団長・花村浩克）



合唱 **春日井第九合唱団**

平成5年12月の春日井市制50周年は、市民の手によるベートーヴェンの「第九演奏会」の春日井初演によって盛大に祝われました。この演奏会を記念して作られたのが、「春日井第九合唱団」です。以後、毎年12月には、新しく募集した市民も加わって、220名を越すメンバーが常に新鮮なベートーヴェンの「第九交響曲」を歌い継いできています。創立以来、ベテランの吉川朗先生をはじめ、多くの優れた音楽家のご指導で、技術的にも、音楽的にも、完成度の高い「第九」演奏を心がけています。平成7年からは、年末の「第九」の本練習に入る前に、特別練習として数々の合唱作品に挑戦しています。本年6月17日（土）には、モーーツァルト生誕250年を記念致しまして、「ミサ曲 KV220」と「アヴェ・ヴェルム・コルプス」を、文化フォーラム春日井の交流アトリウムにおいて、「アトの祭り」の演奏会に出演をいたしました。今年14回になる「第九」はマーク・ライベルさんの指揮で、さらに美しいベルカントな演奏が出来るものと張り切っています。ご期待下さい。（団長・山田伊素子）

（団長・山田伊素子）



「第九」初演時のベートーヴェン

## 音楽と楽の音

春日井市交響楽団音楽監督 都築 正道

難しい第九 私たちは恒例になっているので、もう、ベートーヴェンの「第九」なら大丈夫だと思っています。でも、本当は、なんど演奏しても上手くいかないところがあるのです。むしろ、技術的な難しさが真っ先にあります。プロがやっても、なかなか上手く奏けないところがあります。第4楽章の冒頭のレシタチーヴォはとても難しいので、ワーグナーがドレスデンで初演したときには、「チェロとコントラバスだけ何日も特訓した」といっています。合唱も、高い声でいつまでも歌い続けなければなりません。天から聞こえてくるような、弱くて、美しい声を出さなければなりません。ソリストの四重唱など、どんなCDを聴いてみても、アンサンブルに満足するものはありません。

正確に伝える それに、技術以上に、音楽的な難しさがたっぷりあります。昨年のプログラムの「第九のお話:この世でつけた幸せ」で述べましたが、「第九」はベートーヴェンの最後の作品であり、彼が私たちに残した「遺言」でもあるのです。そうであるならば、ベートーヴェンの遺志を正しく理解して、正しく伝えることが、「第九」の演奏者にとって、もっとも重要なことです。それに、私たちは常に楽観的ですが、芸術はだれにでも分かるものではないのです。分かる人だけに分かってもらえばいい、分からない人は分からなくてもいい—と言う、冷淡なところが芸術にはあ

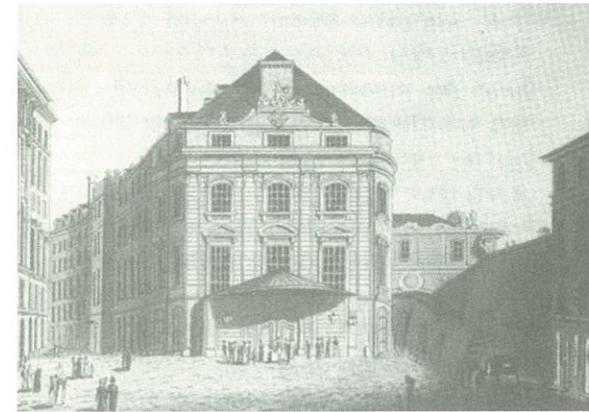
るのです。「第九」を理解し、喜び楽しむことが出来るのは、選ばれた人たちだけです。それは、演奏者も聴衆も同じです。でも、まず、演奏する者が全き理解者とならなくてはなりません。

楽音から音楽へ 「音楽とはなんですか」と訊かれて、「音を楽しむことです」と演奏者が答えるなら、それは間違いです。「音 (tones) を楽しむ (enjoy)」なら「音楽」ではなく「楽音」([We] enjoy the tones) でなければならぬからです。では、「音楽」とはなんでしょうか。文字通り、「音が楽しむ (Tones enjoy) こと」です。私たち演奏家が楽しむのではなく、音が楽しむのです。では、音はなにを楽しむのでしょうか。むしろ、「音が音そのものであることを楽しむ」(Tones enjoy themselves) のです。これが、「音楽」です。すなわち、「音楽」が「楽音」であるかどうかは、音が本来の音そのものであり、本来の音以外のなにものでもないことを、音自身が満足しているかどうかを問うことにあります。英語ではこのことを、「サウンド・オブ・ミュージック」(楽の音・音の調べ)といえます。音楽とは、元々、「音の存在そのもの」を問う「音の存在論」なのです。音楽は存在の家であり、その家には音という存在者が住むのです。

ムジチーレン 私たちは、私たちが演奏する音そのものが、自らが音であることを十分に楽しんでいるかどうか常に問うべきです。音楽とは、決して演奏家自身が楽しむものではありません。演奏家の出す音そのものが、自己の存在を楽しんでいるかどうか、音楽にとって重要であるからです。音は、目に見えなくとも、いや、目に見えないがゆえに、たえず「存在すること」を求めているのです。その音に「存在」を与えるのは、私たち「音楽する」演奏家です。ドイツ語には、「音楽する」(musizieren) という動詞があります。どの一音を演奏するときにも、「果たして音が音で在ることを喜んでいるだろうか」と絶えず謙虚になることが、「ムジチーレン」の真義でしょう。音程が正しく、ハーモニも澄んでいて、リズムも崩れていず正確で、情緒と知性があって、新鮮で、生き生きして、全体の姿が美しい—これが音楽です。

楽の音の世界 では、みなさまは、本日の「春日井市民第九演奏会」になにを聴くのでしょうか。むしろ、「音が楽しむ」のを聴くのです。「楽しんでいる音」を聴くのです。清水に美しい魚が泳ぐのを見るのです。真っ青な天空に飛ぶ鳥を見るのです。厳しくそびえ立つ山を登るのです。山頂から眼下に広がる未来を楽しむのです。蝶となって花園で遊ぶのです。愛する人たちと生きる喜びを共にするのです。このどこにも、「音」はあります。まさに、ミュージカル「サウンド・オブ・ミュージック」で歌われる“The hills are alive with the sound of music” (どの丘も楽の音で満ちている) 世界がそこにあるのです。ベートーヴェンが彼の「第九」で私たちに伝えたかった最大のメッセージは、「音が音で在ることを楽しむ世界の存在」、すなわち、「音楽を造る人がいて、音楽を聴く人がいる世界の存在」

を信じることです。聴衆と合唱団とオーケストラと歌手と舞台関係者と実行委員会と市長と議員と行政と劇場とプレスとTVと花屋と印刷屋とタクシーとアルバイトとお弁当屋さんなどなどの市民が一堂に会するために、作曲家であるベートーヴェンは「第九」を書いたのです。



ケルトンナートル (脇) 劇場  
 («第九」初演の地)

作曲年代	1817年—1824年2月
初演	1824年5月7日 ケルトンナートル劇場
献呈	プロシヤ王フリードリヒ・ヴィルヘルム3世
出版	1826年6月 マイツツ市ショット社。 総譜・管弦楽合唱パート譜・終楽章ピアノ版
総譜出版	
楽器編成	fl.ob.cl.fg. (第4楽章でピッコロとコントラ・ファゴットが加わる)。trp. (第2楽章と第4楽章にトロンボン3が加わる)。以上各2。hrn.4.tim. (第4楽章にはトライアングルとシンバルと大太鼓が加わる)。弦5部。ソプラノ、アルト、テナー、バリトンの各ソロと混声合唱。
第1楽章	快速に・ただし控え目に・そしてやや威厳をもって・二短調・2/4拍子 (14分)
第2楽章	きわめて早く活発に 二短調・3/4拍子・スケルツォ (11分)
第3楽章	ごくゆっくりと歌うように・変ロ長調・4/4拍子・変奏曲 (16分)
第4楽章	とても急速に 二短調・3/4拍子 (28分) [全1時間09分]

第4楽章の解説  
第4楽章は次の18の部分に分かれています。いよいよ交響曲に声楽 (ソロと合唱) が登場します。

1. 「序奏」=前3楽章の回帰とても急速に) 二短調・3/4 4拍子 (開始小節数: 1)
2. 「喜びの歌」: オーケストラによる主題の呈示 (は

3. 「ベートーヴェンによるマニフェスト」(とても急速に) 二短調・3/4拍子 (208)  
バリトン・ソロ (レシタティーヴ)  
O Freunde, nicht diese Töne!  
おお、友人たちよ、このような調ではない!  
Sondern laszt uns angenehmere  
anstimmen, und freudvollere!  
もっと楽しく喜びに溢れた調べを歌おう。
4. 「喜びの歌」: 声楽による主題の呈示 (はなはだ早く) 二長調・4/4拍子 (237)

バリトン・ソロ  
Freude! 歓喜よ!  
合唱 (バス)  
Freude! 歓喜よ!  
バリトン・ソロ  
Freude! 歓喜よ!  
合唱 (バス)  
Freude! 歓喜よ!  
バリトン・ソロ

Freude, schuner Gotterfunken,  
歓喜よ、美しい神々の火花よ、  
Tochter aus Elysium,  
楽園から来た乙女よ、  
Wir betreten feuertrunken,  
私たちは火に酔いしれて、  
Himmliche, dein Heiligtum!  
神々しき者よ、あなたの聖所に踏みいる。  
Deiner Zauber binden wieder,  
あなたの魔力は再び結びつけるのだ、  
Was die Mode streng geteilt;  
時流が鋭く引き裂いたものを。  
Alle Menchen werden Bruder  
すべての人々は兄弟になる、  
Wo dein sanfter Flugel weilt.  
あなたの優しい翼が広がるところに。

合唱 (アルト、テナー、バス)  
Deiner Zauber binden wieder,  
あなたの魔力は再び結びつけるのだ、  
Was die Mode streng geteilt;  
時流が鋭く引き裂いたものを。  
Alle Menchen werden Bruder  
すべての人々は兄弟になる、  
Wo dein sanfter Flugel weilt.  
あなたの優しい翼が広がるところに。  
(間奏・4小節)

5. [第1変奏]=4重唱 二長調・4/4拍子 (268)  
3重唱 (アルト、テナー、バリトン)  
Wem der grosse Wurf gelungen,  
一人の友の友となる  
Eines Freundes Freund zu sein,  
大いなる企図が成就した者、  
4重唱  
Wer ein holdes Weib errungen,  
一人の優しい女性を勝ち得た者は  
Mische seinen Jubel ein!

喜びの声に唱和しなさい  
Ja, wer auch nur eine Seele  
そうだ、この地上でただ一人でもその人の  
Sein nennt auf dem Erdenrund!  
心が自分の物だと言える人は唱和しなさい。  
Und wer's nie gekonnt, der stehle  
そしてそれができなかった者は、  
Weinend sich aus diesem Bund.  
泣きながらこの仲間からたち去るがよい。

合唱

Ja, wer auch nur eine Seele  
そうだ、この地上でただ一人でもその人の  
Sein nennt auf dem Erdenrund!  
心が自分の物だと言える人は唱和しなさい。  
Und wer's nie gekonnt, der stehle  
そしてそれができなかった者は、  
Weinend sich aus diesem Bund.  
泣きながらこの仲間からたち去るがよい。

(間奏・4小節)

6. [第2変奏]=4重唱 二長調・4/4拍子(297)  
2重唱(テナー、バリトン)

Freude trinken alle Wesen  
すべての生き物は  
An den Brustern der Natur;  
自然の乳房に触れて喜びを飲む。  
3重唱(アルト、テナー、バリトン)  
Alle Guten, alle Bosen  
すべて善き者も、悪しき者も  
Folgen ihrer Rosenspur.  
その薔薇のような香りに誘われるのだ

7. [第3変奏](305)

4重唱

Küsse gab sie uns und Reben,  
自然は私たちにキスとブドウと  
Einen Freund, geprüft im Tod.  
終生変らぬ友を与えてくれた。  
Wollust ward dem Wurm gegeben,  
肉欲はウジ虫にくれてやった、  
Und der Cherub steht vor Gott!  
そして天使ケルビムが神の前に立つのだ!

8. [第4変奏](313)

合唱

Küsse gab sie uns und Reben,  
自然は私たちにキスとブドウと  
Einen Freund, geprüft im Tod.  
終生変らぬ友を与えてくれた。  
Wollust ward dem Wurm gegeben,  
肉欲はウジ虫にくれてやった、  
Und der Cherub steht vor Gott!  
そして天使ケルビムが神の前に立つのだ!  
Und der Cherub steht vor Gott!  
そして天使ケルビムが神の前に立つのだ!  
steht vor Gott!  
神の前に立つのだ!  
vor Gott!  
神の前に!

9. [第5変奏](とても快速に、活発に、行進曲風に)  
変口長調・6/8拍子(331)

オーケストラだけによるトルコ行進曲

10. [第6変奏]=テナー・ソロと男声合唱による行進曲  
(375)

テナー・ソロ

Froh,  
進め、  
Froh, wie seine Sonnen fliegen  
天体の壮麗なプランによって  
Durch des Himmels pracht'gen Plan,  
もろもろの太陽がへめぐるように喜ばしく  
Lauftet, Bruder, eure Bahn,  
進みなさい、兄弟たちよ、あなたの道を、  
Freudig, wie ein Held zum Siegen.  
勝利に向かう英雄のように喜びにみちて。  
テナー・ソロと男声合唱(テナー1、テナー2、  
バス)  
Lauftet, Bruder, eure Bahn,  
進みなさい、兄弟たちよ、あなたの道を、  
Freudig, wie ein Held zum Siegen.  
勝利に向かう英雄のように喜びにみちて。

11. 「喜びの歌」=再現部 二長調・6/8拍子(543)

合唱

Freude, schöner Gotterfunken,  
歓喜よ、美しい神々の火花よ、  
Tochter aus Elysium,  
楽園から来た乙女よ、  
Wir betreten feuertrunken,  
私たちは火に酔いしれて、  
Himmliche, dein Heiligtum!  
神々しき者よ、あなたの聖所に踏みいる。  
Deiner Zauber binden wieder,  
あなたの魔力は再び結びつけるのだ、  
Was die Mode streng geteilt;  
時流が鋭く引き裂いたものを。  
Alle Menschen werden Bruder,  
すべての人々は兄弟になる、  
Wo dein sanfter Flügel weilt.  
あなたの優しい翼が広がるところに。  
(後奏・4小節)

12. 「抱擁の主題」=呈示(やや遅く、威厳をもって)

ト長調・3/2拍子(595)

男声合唱

Seid umschulingen, Millionen!  
抱き合おう、百万の人よ!  
Diesen Kuss der ganzen Welt!  
この口づけを全世界の人に!

全合唱

Seid umschulingen, Millionen!  
抱き合おう、百万の人よ!  
Diesen Kuss der ganzen Welt!  
この口づけを全世界の人に!

男声合唱

Bruder! — überm Sternenzelt  
兄弟たちよ! 星空の上には

Muss ein lieber Vater wohnen.  
一人の父が住みたまうに違いない。  
(へ長調へ転調します)

全合唱

Bruder! — überm Sternenzelt  
兄弟たちよ! 星空の上には  
Muss ein lieber Vater wohnen.  
一人の父が住みたまうに違いない。

13. 「懐疑の主題」(ゆるやかに、急がないで、敬虔に)  
ト短調。3/2拍子。(627)

合唱

Ihr stürzt nieder, Millionen?  
ひざまづくのか、百万の人よ?  
Ahnest du den Schöpfer, Welt?  
お前は創造主を予感するのか、世界よ?  
Such' ihn überm Sternenzelt!  
星空の上に彼を求めよ!  
über Sternen muss er wohnen.  
星々のかなた、彼は必ず住みたまう。  
über Sternen muss er wohnen.  
星々のかなた、彼は必ず住みたまう。

14. 「2重フーガ」(快速に激しく、常に音をはっきり  
出して) 二長調・6/4拍子(654)

Seid umschulingen, Millionen!  
抱き合おう、百万の人よ!  
Diesen Kuss der ganzen Welt!  
この口づけを全世界の人に!  
Freude, schöner Gotterfunken,  
歓喜よ、美しい神々の火花よ、  
Tochter aus Elysium,  
楽園から来た乙女よ、  
Wir betreten feuertrunken,  
私たちは火に酔いしれて、  
Himmliche, dein Heiligtum!  
神々しき者よ、あなたの聖所に踏みいる。

15. 「懐疑の主題」=変奏(730)

合唱(バス)

Ihr stürzt nieder, Millionen?  
ひざまづくのか、百万の人よ?

合唱(テナー)

Ahnest du den Schöpfer, Welt?  
お前は創造主を予感するのか、世界よ?

合唱(アルト)

Such' ihn überm Sternenzelt!  
星空の上に彼を求めよ!

全合唱

Such' ihn überm Sternenzelt!  
星空の上に彼を求めよ!  
Bruder!  
兄弟たちよ!  
Bruder! — überm Sternenzelt  
兄弟たちよ! 星空の上には  
Muss ein lieber Vater wohnen.  
一人の父が住みたまうに違いない。

16. [第7変奏]=4重唱(快速に、ただし控え目に) 二  
長調・2/2拍子(763)

4重唱

Freude Tochter aus Elysium,  
歓喜よ、楽園から来た乙女よ、  
Tochter Tochter aus Elysium,  
乙女よ、楽園から来た乙女よ、  
Deiner Zauber binden wieder,  
あなたの魔力は再び結びつけるのだ、  
Was die Mode streng geteilt;  
時流が鋭く引き裂いたものを。

4重唱と合唱

Deiner Zauber binden wieder,  
あなたの魔力は再び結びつけるのだ、  
Was die Mode streng geteilt;  
時流が鋭く引き裂いたものを。  
Alle Menschen Alle Menschen  
すべての人々は、すべての人々は、

合唱

Alle Menschen werden Bruder,  
すべての人々は兄弟になる、  
Wo dein sanfter Flügel weilt.  
あなたの優しい翼が広がるところに。

17. [第8変奏](814)

合唱

Deiner Zauber binden wieder,  
あなたの魔力は再び結びつけるのだ、  
Was die Mode streng geteilt;  
時流が鋭く引き裂いたものを。  
Alle Menschen werden Bruder,  
すべての人々は兄弟になる、

4重唱

Alle Menschen werden Bruder,  
すべての人々は兄弟になる、  
Wo dein sanfter Flügel weilt.  
あなたの優しい翼が広がるところに。

18. 「コーダ」(きわめて早く) 二長調・2/22拍子(843)

合唱

Seid umschulingen, Millionen!  
抱き合おう、百万の人よ!  
Diesen Kuss der ganzen Welt!  
この口づけを全世界の人に!  
Bruder! — überm Sternenzelt  
兄弟たちよ! 星空の上には  
Muss ein lieber Vater wohnen.  
一人の父が住みたまうに違いない。  
Seid umschulingen, Millionen!  
抱き合おう、百万の人よ!  
Diesen Kuss der ganzen Welt!  
この口づけを全世界の人に!  
Freude, schöner Gotterfunken,  
歓喜よ、美しい神々の火花よ、  
Tochter aus Elysium,  
楽園から来た乙女よ、  
Freude, schöner Gotterfunken,  
歓喜よ、美しい神々の火花よ。

# みんなで歌おう、春日井賛歌を…

## < 歓喜の歌 >

作詞 ● なかにし礼

1. あ い こ そ か ん き に み ち  
び く ひ ー か り さ え ぎ る  
く な ん を こ え て す す ー ま  
ん か ん き の い た ー だ き  
ふ み ー し め た と き わ ー れ  
ら は き ょ う だ ー い せ か い は ひ ー と  
つ か ん き の い た ー だ き ふ み ー  
し め た と き わ ー れ ら は き ょ う  
だ ー い せ か い は ひ ー と つ

1. 愛こそ歓喜にみちびく光  
さえぎる苦難を越えて進まん  
歓喜の頂いただき踏みしめた時  
我らは兄弟世界は一つ  
歓喜の頂いただき踏みしめた時  
我らは兄弟世界は一つ

2. 気け高たかき乙女を勝ち得たものよ  
手を取り歓呼かんこの叫びをあげよ  
人間一人で何が出来よう  
愛なき孤独の人は立ち去れ  
人間一人で何が出来よう  
愛なき孤独の人は立ち去れ